

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2573-1		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している協力医療機関との連携を強化し、必要時には迅速に医療が受けられる体制を整えている。協力医療機関に利用者の状態を詳細に把握している担当看護師がおり、利用者の日常生活における医療的相談をしたり、指導を受けることができる。協力医療機関の理学療法士が週1回来訪し、生活のなかでのリハビリについて指導を受けている。認知症ケアに携わる介護職員として必要な能力項目を定め、職員が自発的に自己の能力や技術を高めていけるように指導している。利用者にきちんと向き合って思いを把握し、その思いを叶えるケアが提供できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入り込んだ閑静な住宅街に位置している。周辺には、同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所がある。医療機関と緊急時の連携体制を整備しており、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、積極的に研修へ参加するなどして認知症ケアに関する支援の質の向上に努めている。また、利用者の尊厳や権利を尊重し、寄り沿う介護を実践している。代表者や管理者、職員間の関係は良好で、相互に意見や気づきを活かして、サービスの質の向上に取り組んでいる。年1回、事業所に地域住民を招待して食事を開催したり、積極的に中学生などの研修生を受け入れたりして地域との交流に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合い、理念に沿ったケアができるように努めている。職員トイレにも掲示して確認できるようにしている。	事務所内の随所に理念を掲示している。全職員で地域密着型サービスの意義を確認し合って共有し、日頃のケアに反映している。また、入職時にも理念を伝達するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が近所の理容店や商店を利用したり、地域交流食事に近隣住民を招待して、利用者との交流を深めている。	年1回、事業所に地域住民を招待して食事を開催している。住民から旬の野菜の差し入れをいただくこともある。日頃から、利用者や地域住民、職員の間で挨拶を交わすなど、顔馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを受け入れたり、地域交流会を通して認知症の人の理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族・地域住民・行政・他施設・消防など、さまざまな立場の人に参加してもらい、当事業所の現状報告を行って意見をもらっている。	年6回、運営推進会議を開催している。会議の議題に応じて消防署員や警察署員等の出席を得るなどの工夫を行い、報告や情報交換を行っている。様々な立場の方から助言や意見を出してもらってサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会があるときに市担当窓口を訪れて現状報告をして指導を仰いでいる。また、不明な点があれば電話等で質問して教えてもらっている。	市担当者を事業所の行事に招待したり、毎月、事業所の職員が市介護保険課を訪問したりして、密に連携を図るようにしている。困難事例等について相談や報告を行っている。市担当者から得た助言や意見を運営面に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。緊急やむを得ない場合に限り、管理者・職員・家族を交えて協議し、最小限で済むように努めている。	年1回、同一法人の運営する他事業所とともに研修を開催している。朝礼時に、全職員でケアの振り返りを行い、身体拘束の弊害について共通理解と認識を図っている。安全面に配慮しつつ、一人ひとりの自由な暮らしを支えるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を個々で確認し、業務のなかで不適切なケアがないか注意しながら取り組んでいる。勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用者はいませんが、職員が勉強会に参加して学習し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や事業所の取り組みを説明し同意を得ている。不明な点があれば、随時、質問・相談を受けることができることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族には面会時や電話で現状報告をして、意見・要望をできるだけ実現できるように努めている。外部の相談窓口についての情報提供も行っている。	職員は、日頃の利用者との暮らしの中で一人ひとりの意向を把握するようにしている。また、家族の来訪時のほか、電話等でも意見や要望を把握するよう努めている。出された意見は、朝礼時などに検討し運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・施設長は、現場職員からの意見・提案をその都度聞き取り、運営に反映できるよう努力している。年2回、個別面談を行い運営方針を共有している。	代表者や管理者は、朝礼時や毎月のカンファレンス、年2回の個別面談、日頃の業務等を通じて、職員の意見や要望を引き出すよう努めている。職員から出された意見は、まず職員間で共有と検討を行ったうえで、代表者や管理者が一人ひとりの力量を十分に活かすよう運営面に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・施設長は個々の職員の長所を把握し、それに合った業務を行わせることで、意欲の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内部・外部の研修会に参加する機会を設けて、職員の能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回開催されている美馬市指定グループホーム合同連携会議に同業者が集まり、情報交換等を行って日々の業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学・体験入居等を行い、リロケーションダメージの軽減に努めている。入居時には本人・家族の要望や生活環境等を受容的に聴き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の不安や要望を聴き、そのニーズに合った支援を実践することで、良い関係を築くことができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した利用者と家族が、今、何をを必要としているのかを把握し、職員・利用者・家族で話し合い、適切なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を「自分の家族のような存在」ととらえ、長い人生経験から色々なことを教えてもらえるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が協力して本人をサポートしていくという思いを持ち、本人・家族・職員が互いに信頼できる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人がこれまで利用していた美容室等、なじみの関係を大切に、家族の協力も得て交流が保てるように支援している。	事業所では、利用者が近隣の美容室へ出かけたり、携帯電話を使用したりすることができるよう支援している。また、家族の協力を得て、手紙を出す支援も行っている。訪問理・美容や友人の来訪もある。利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、対応を工夫することで利用者間のトラブルを防ぎ、楽しく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退居)しても相談があれば親身になって対応し、今までの関係を大切にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日常的に関わるなかで意向や希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方に対しては、その表情や行動から意向・希望を見極めるようにしている。	日頃から職員は、利用者との関わりのなかで会話や表情に着目し、希望や意向を把握するよう努めている。意向の把握が困難な場合には、家族に聞いたり、日々の行動や表情から意向を汲み取ったりして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの保護に留意しながら、利用者本人の生活歴・生活環境・家族構成等の情報を本人及び家族・前施設から収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズム、心身状態を観察し、把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議(ケアカンファレンス)を行い、利用者・家族の意見が反映された介護計画が作成できるように努めている。	本人や家族、関係者間で話しあい、その人らしい暮らしの実現に向けた介護計画の作成に努めている。3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。また、月1回のモニタリングを行い、状態変化に応じて計画を変更するなど柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・生活記録・受診記録等、各記録の情報をもとに会議で話し合い、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズの変化を早期にとらえ、それに合わせた柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が近隣の理容店や商店を利用するにあたり、職員が仲立ちして良好な関係が築けるようにし、地域のなかで生活していることが実感できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の受診を協力医療機関に限定せず、本人・家族の希望する医療機関での受診ができるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週2回、担当の看護師による来訪がある。また、協力医療機関と緊急時の連携体制を整備している。家族と協働し、通院の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関に利用者の状態を把握している看護師がおり、利用者への医療面での対応についていつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から協力医療機関の医師・担当看護師に利用者の状況を報告・連絡して情報を共有している。速やかな入退院に対応できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人・家族の希望により、ターミナルケアや訪問看護が導入できる体制を整えている。折に触れて本人や家族の意向を確認し、共有している。	事業所では、看取りの指針を整備している。段階ごとに本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と相談して対応方針の共有化を図っている。本人や家族の意向に沿うことができるようチーム間で連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は勉強会への参加や看護職からの指導を通じて、急変時や事故発生時の具体的な対応方法について学び備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を行って対応方法の把握を徹底している。また地域の防災訓練にも参加し、近隣住民に災害時の協力も依頼している。	年2回、消防署の協力を得たうえで、法人全体で防災訓練を実施している。また、年2回、事業所独自の避難訓練も行っており、様々な災害を想定した訓練となっている。IHの導入等、環境面を整備したり、災害マニュアルの作成や備蓄を行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者のプライバシーを確保し、プライドを損なわない関わり方とは？」ということについて繰り返し職員間で確認し合い実践している。	職員は、見守りを中心とした支援を心がけ、自己決定できるよう関わっている。一人ひとりの自尊心とプライバシー確保に留意している。昼食後に職員間で利用者の尊重について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を気兼ねなく表出できる雰囲気づくりに努め、日常の生活のなかで利用者が選択・決定できる機会を意識的に作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務をこなすことを優先する考え方をできる限り排除し、利用者ごとに異なるペースや過ごし方に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型等、利用者本人の好みを尊重し、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に野菜の皮むき等を手伝ってもらいながら、その野菜でどんな料理が食べたいかを聞いたり、おいしい食べ方を教えてもらって調理することもある。利用者の食べたいものを献立に組み入れるようにしている。	同一法人の運営する他サービス事業所の管理栄養士とともに作成した献立に基づいて調理している。残食や嗜好調査も実施している。行事食やおやつに利用者の好みを取り入れている。また、住民から差し入れてもらった旬の野菜や果物を活用して、利用者職員で手作りおやつや行事食を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分量を確認し、嫌いなものがあれば代替食を用意するようにしている。夏の水分摂取には経口補水液なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内、義歯に異常があれば、早期に協力歯科医療機関にて受診できる体制を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄パターンを把握しながら適時にトイレ誘導を行い、少しでもおむつ内への排泄を減らすようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況に応じて、可能な限りトイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている。介助の際にはさりげない配慮を行い、プライバシーを損なうことのないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認している。無理なく水分摂取量が確保できるような飲み物の工夫をしたり、ヨーグルト等の乳製品を活用して自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望により毎日の入浴にも対応している。入浴できない体調のときは清拭・陰部洗浄・足浴を実施し、身体保清に努めている。	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。少なくとも週2回は入浴してもらえるようにしている。利用者の羞恥心や不安感を取り除くよう、プライバシーを配慮した入浴支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やしたりして、自然で良質な睡眠ができるようにしている。また、布団干しをこまめに行うなど、寝具の状態にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々のカルテにファイルし、いつでも確認できるようにしている。誤薬防止のため薬を手渡す時に利用者の名前を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫が得意な利用者に衣服のほころびを直してもらったり、きれい好きの人に居室の清掃をお願いする等、その人の力量に応じた役割を持ってもらうことで、いきいきとした生活ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人や家族の希望により、体調をみながら自由に外出できるようにしている。身体機能上、外出の頻度が少ない利用者には、職員が付き添って散歩をする等、少しでも戸外に出ることができるようになっている。	利用者の体調に応じて天候の良い日には散歩へ出かけるなどして気分転換を図っている。また、年間行事に遠出の外出を計画し、利用者に喜んでもらえるよう支援している。家族の協力を得たうえで外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により少額のお金を持ってもらっており、それが本人の安心につながっている。パンの移動販売を利用する際に、本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望すれば、いつでも電話を掛けたり手紙を書いたりできるように支援している。携帯電話を持つことも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の明るさ・テレビの音量・室温等に留意し、環境が利用者の穏やかな暮らしを妨げることがないようにしている。金魚の飼育や季節の植物を飾るなど、生活感や季節感のある空間づくりをしている。	リビング広く、食事や作業用の机を配置している。共用空間の窓からは、自然の風景を見渡すこともできる。畳の間や採光のための空間も整備しており、落ち着いた雰囲気がある。壁面には季節の作品を掲示し、利用者がゆっくりと落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の視点で利用者の居場所を決めてしまわないようにして利用者のその時の思いをつかみ、それぞれの利用者にとって居心地の良い場所を確保できるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた愛着のある物品を持ち込んでもらい、自分の家のように過ごせるよう支援している。	利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう、居室に馴染みの家具や写真、本等を持ち込んでもらっている。安全面に配慮し、本人が居心地良く過ごせるような工夫や環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が移動する際には、本人の持つ力を使うことができるよう、杖・シルバーカー等、状態に応じた適切な補助具を使用している。また、その補助具が安全に使用できるように点検を行っている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や職員心得をいつも確認できるよう掲示している。理念に沿ったケアができているか職員間で確認し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の理容店に利用や散歩等を通じて地域の方々や顔見知りになり、良い関係を築いている。また、年1回、地域の方を招いて交流食事会を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の体験学習を受け入れたり、地域交流会や運営推進会議において当事業所の認知症ケアに関する取り組みを伝え、地域のなかでの役割を模索している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、各分野の皆様からのご意見を現場に持ち帰って話し合い、ケアの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごとに市担当者を訪問し現状を報告し意見・指導を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き、玄関やフロア入口の施錠は最小限になるよう努めている。身体拘束は原則として行わないが、緊急やむを得ない場合は、管理者・職員・家族で十分に話し合っ必要最小限で実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部署合同の高齢者虐待防止についての勉強会を実施し、参加できなかった職員にも資料を回覧・説明し、日常の業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて日常生活支援事業や成年後見制度についての理解を深め、対象者が入居した場合に安心して生活できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時には資料を用いて十分に説明し同意・納得を得ている。消費税改定時には一部料金の改定を行ったが、その際にも書面を用いた説明を行って同意を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・施設長は意見箱や直接面談を通じて利用者・家族の意見や要望を聴き、実現できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談や随時の面談で職員からの意見・提案を聴いている。また、職員が相談や提案を行いやすい雰囲気づくりをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・施設長は職員1人ひとりのレベルを把握し、それぞれの職員に合った指導を実践するとともに、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や法人内勉強会の実施・資格取得に向けての支援を行っている。介護プロフェッショナルキャリア段位制度の導入も検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市指定グループホーム合同連携会議を通じて、同業者との交流を図り、勉強会や情報交換を行ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない利用者は、新たな場所での生活に少なからず不安を抱えているので、これまでの生活情報を把握し、本人からの要望等の情報収集を行って、その不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居時に家族の不安や要望を十分に聴き取り、利用者も家族も安心して生活できるように支援方法を検討し、実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した利用者とその家族にとって、今、必要な支援について職員間で話し合い、少しずつ生活に慣れていくことができるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持ちながらも家族のような親しみのある関係を保ち、共に生活し助け合うことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話にて本人の近況報告を行い、支援方法を話し合うことで共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、本人が行きつけの美容院を利用することや地域の老人会に参加することを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の精神・身体状態の重度化が進んでも、利用者同士の交流ができるような機会づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット「藍」	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退居)しても、家族に本人の状況を尋ねたり様子を見に行ったりして、これまでの関係を断ち切らないようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ときちんと向き合って話をする機会を積極的につくり、コミュニケーションが困難な方に対しては日常の様子から希望や意向をつかむようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聴いたり、前施設からの提供された情報を参考にして、利用者のこれまでの暮らしぶりや生活環境を把握するよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの利用者の残存機能や生活リズムを把握し、家事や運動等、その人に合った支援ができるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議(ケアカンファレンス)を開催して職員間で話し合い、利用者を中心としたケア計画の作成に反映させている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに入居者の日々の様子や精神的・身体的状態を記録し、その記録をもとに職員間で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の「思い」を大切に、型にとらわれない自由な生活ができるよう柔軟な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店や商店を利用することで顔なじみの関係をつくり、利用者が地域の一人として生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、本人や家族が希望する医療機関での受診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師に利用者の状態を報告・相談し、アドバイスをもらったり早期の受診につなげることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関には利用者が必要時に入院できる体制があり、日頃から利用者の情報を共有し、互いに入退院時の利用者・家族へのストレス軽減に向けて取り組める関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期の支援方法について、本人・家族・主治医と早期から話し合い、利用者・家族が安心し納得できるサービスが提供できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は法人内の勉強会で急変時や事故発生時の対応について学び、担当看護師の指導を受けたり、急変時・事故発生時のマニュアルの確認も行いながら、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体及び当事業所での防災訓練・参集訓練を実施し、近隣住民にも災害時の応援を依頼して利用者の安全確保体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳と権利を守ることを大切に、日常のかかわり方について互いに確認し合い実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にきちんと向き合う時間をつくり、利用者が自身の思いや希望を話やすく自己決定しやすい雰囲気の中での支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、業務を遂行することに気をとられて利用者の生活を乱すことがないように、それぞれの人にとって快いペースや過ごし方を把握して、それに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は、利用者の好みを確認しながら一緒に毎日の服装を選んだり、整容や化粧の支援を行ってその人らしくいきいきと生活できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の状態や好みに合わせて、食べやすいもの・好物等を食卓に用意し、準備の段階から食事・片付けに至るまで、楽しい雰囲気の中かで過ごせるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人ひとりの疾患・栄養状態・食事や水分の摂取量・食習慣を把握し、場合によっては栄養食品を利用するなどして、無理なく栄養・水分が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯や口腔内に異常がないか確認したり、磨き残しのチェックを行っている。利用者1人ひとりの力量に応じて、職員が介入する度合いを決めて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、おむつを使用している場合でもその人の状態により、トイレやポータブルトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行い、水分摂取量の確保と乳製品や食物繊維の多い食材の活用等により、薬剤に頼りすぎず、自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間帯の入浴には対応できていないが、曜日を固定せず、利用者が希望する日に快適に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	中途覚醒や不眠を防ぐため、日中の活動を高める工夫をしている。利用者の体調により、短時間の仮眠をとったり、横臥して休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし、随時確認している。協力医療機関の薬剤師の指導を受け、服薬時期ごとの色分けや声出し確認等、安全に服薬支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のカレンダーづくりやメニューボードの記入・食器洗い・フロアの清掃等、それぞれの利用者の力量にあった役割を持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の関わりのなかで本人の外出希望を把握し、家族の協力を得ながら、その希望が実現できるように努めている。状態により外出機会の少ない利用者には、職員とともに散歩に出掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者には少額のお金を持ってもらい、なじみの理容店や商店の利用時に、ご自身で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により携帯電話を所持することや、当事業所の電話を使用することが可能である。利用者が気兼ねなく電話を掛けたり手紙を書いたりできるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明・音・室温等に気を配り、利用者が快適に生活できるようにしている。季節が感じられる装飾や草花を活用して、居心地の良い雰囲気づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で会話を楽しんだり、一人でのんびりと日向ぼっこをしたり、ソファで気の合う人と一緒にテレビを見たり、利用者が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使っていたなじみのある調度品や小物を持ち込んでもらい、少しでも自宅での暮らしに近い環境で生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの状態に合わせて車椅子やシルバーカー・歩行器・杖等を活用して本人が安全に動けるようにし、危険回避を意識するあまり、過剰な行動制限をしないようにしている。		